

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL.20

平成28年1月31日

発行：安全委員会課 藤井・蜂谷

安全委員会開設6周年記念号

『六周年記念をむかえて』

羊ヶ丘養護園 園長 三浦伸子

安全委員会設置から六年が経過しました。昨年からの一年間は、大舍制から家庭的養護、少人数グループケアへと大きく変化したことで、安全委員会の活動にも新たな課題への対応を展開した年でした。中でも、狭い生活空間での人間関係の密着性からもたらされる過干渉や威圧性、飛び出しやリストカットなど恐怖心を与える暴力等が目につきました。しかし、養育システムが変更しても大きな混乱もなく、安全委員会活動がスムーズに展開できたのは、入所児童のほとんどが安全委員会を経験できていたことと、職員間に、他のユニットで起きた暴力に介入して「寄つてたかってサポートする」体制ができていたこと、安全委員会課中心に行った新任職員に対する学習会なども有効的な取り組みだったと言えます。このような職員の頑張りもたいへん頼もしく思っています。

千葉で開催された安全委員会全国大会の中で、當眞教授が「日々の取り組みが暴力のない文化をつくっていく」と仰っていました。まさに安全委員会活動の積み重ねが、当園の中にも「暴力を容認しない」文化を少しずつ根付かせてきているように感じられます。

今年の記念集会の子どもの意見表明に、「私はやつと口でゴメンネと言えるようになりました」や、めつきり暴力をしなくなった中一男子の「僕は暴力をしたくないの、小さい子は僕にちよっかいをかけないでください」などがありました。子どもたちは、このように少しずつ変化し、成長していくのだと痛感させられました。また、在園時に暴力のキーパーソンになったことのある卒園生も、「安全委員会があったから、社会に出ても暴力をしないで我慢している」と語ってくれます。

日々の取り組みが大切であるからこそ、また、みんなで頑張っていこうと決意した記念集会でした。これも皆様のお陰です。ありがとうございます。



『安全委員会導入六年目をむかえて』

羊ヶ丘養護園 主席児童指導員 神田知幸

私は、現在ポプラのユニット長をしています。高校3年生2名、高校1年生2名、中学1年生2名、小学生2名小4・小3の男子8名を3人の職員が担当しています。安全委員会方式を導入して6年経過した現在ですが中高生は、感情的になっても気持ちを落ち着かせて行動する姿が見られ、これは安心安全な生活を作るという取り組みが継続されてきたことにより、子どもたちに暴言暴力はいけないことだという意識が高まったことだと私自身感じています。

初めて安全委員会方式を導入した当初は、児童の反応として、「いままでどおりでいい」「やんなくていいよ」「なんで今やるの」「もつとまえからやれよ」などの中高生の反発感情がありました。児童に開示する前の職員研修の中で田嶋九州大学名誉教授より高学年の反発感情があると説明があり、まさにその通りであったと実感したことを覚えています。対応した職員も中高生からの反発感情にどのように対応するべきかと模索しながら安全委員会方式対応を行っていました。私も戸惑いながらも対応し、対応後の振り返りで指導内容に不足があったことや対応の間違いに気付かされたりしました。反省を繰り返しながら、安全委員会方式対応の中で子どもが失敗したことと同じ過ちをしないように学ぶ機会となるように現在も自分自身の対応に心がけていきます。

現在は、6ユニットに分かれています。職員一人一人が子どもたちとともに安心安全な生活作りに取り組んでいます。今年のテーマは、「みんなで安心安全な生活を作ろう。みんなが輝けるように」となっており、子どもたちが自分自身を大切に、またお互いに相手を気遣い、助け合い、一人一人が輝かしい1年となるように、これからも子どもたちとともに安心安全な生活を作っていきたいと思えます。



安全委員会6周年記念集会の様子

安全委員会を取り入れて6周年を迎えました。平成26年12月6日(火)に外部委員の先生方4名をお招きし、子どもたちと職員で、安全委員会6周年記念集会を行いました。外部委員の先生より、子どもたちの1年の頑張りを褒めていただくと共に「受援力」が一緒に生活する上では大切であるというお話があり、その言葉をしっかり受け止めて、また1年子どもたちと生活をしていこうと思えた時間となりました。意見表明では、子どもたちは日々他者との交流で葛藤していること等が表明され、また日々子どもと向き合い葛藤する職員からも、一緒に頑張っていくんだという熱意が感じられ、子どもと職員の思いが1つになった記念集会となりました。

6周年のテーマは「みんなで安全・安心な生活を作ろう～みんなが輝けるように～」です。みんなの良いところや優しさや思いやりがキラキラ輝く1年となるように職員も子どもたちと頑張ります！



6周年記念ポスター



記念集会の様子

職員の意見表明

私は、白樺で勤務しておりますが、白樺はいつも温かい雰囲気の中で日々子どもたちは生活していると実感します。言葉遣いが悪くなったり、時に威圧的な発言や行動が見られることもあります。そういったことがあった時は、きちんと子どもたちと話をするようにしています。

これからも常に優しい気持ちと優しい言葉が飛び交う家、子どもたちが心地よいと感じられる家となるよう、安心安全をしっかりと守っていきたいと思います。

職員 辻

6周年目のテーマにもある「輝」には、子どもたちが輝きある存在であるという意味が込められています。子どもだけではなく、職員一人ひとりやそこに集う人々も。そして養護園全体がいきいきと輝いている…これからもそうあり続けたいという想いが込められています。

みんなが書いてくれたポスターもまた今日から1年間、暴力、暴言のない生活、楽しい生活をしていこうという各ユニットの決意が込められています。みんなと先生たちと今日から輝き続けられるように頑張ります！

職員 湯口

この6年間子どもたちと取り組んできた安全委員会の約束、「叩かないで口で言う」「たとえ相手が悪くても叩かない」「優しく口で言う」はしっかりと子どもたちに伝わって、今では中学生が暴力を起こすことがほとんど無くなってきており、小学生同士が喧嘩をしていたら止めてくれたり、注意をしてくれるようになってきました。これはとても嬉しく感じています。後は、叩いたり蹴ったりしなくても相手を威圧したり、一部の小学生の暴力や暴言がなくなっていけばより安心で安全な生活が送れるのではないかと思います。

また、この一年、みんなで頑張った暴力が無い、全国でも「羊ヶ丘養護園は安全委員会の取り組みを熱心に行っていて暴力が無くて素敵だね、すごいね」と言われ続けられるように職員、児童、力を合わせて頑張っていきたいと思います。

安全委員会課 主幹 小野 一貴



子どもたちの意見表明



安全委員会6周年記念集会では、12名の子どもたちが力強い意見表明をしてくれました。子どもたちは小規模ユニットでの生活にも慣れ、生き生きと過ごす中でたくさんの頑張りも見られました。ここでは、記念集会で発表された意見表明の中から一部を紹介します。

私は、養護園に来てから初めて安全委員会を知り、養護園で生活をして4ヶ月が経ちました。私はイライラした時に暴力をしたり、暴言を言ったりして失敗してしまふことがあります。その時に先生が「叩かないで、口で言おう」「優しく言おう」「たとえ相手が悪くても暴力をしてはいけないよ」と教えてくれたので、私は暴力を止めようと気を付けるようになり、トラブルが減りました。大きい子に注意されることも減り、みんなと仲良く楽しく過ごせる時間が増えました。暴力・暴言をやめると、良いことがあるなと思いました。これからは、思った事を口に出したり暴力をしたりせずに、一度よく考えてから行動が出来るように頑張りたいです。 小学5年 三條 音

私は白樺が開設されてから4年間ずっと白樺で生活しています。今まで一度も安全委員会を白樺で開いた事は無く、暴力が無い生活を送ることが出来て嬉しいです。私は小学生に対してきつい言葉で話をしてしまう事もあり、友だちに対しても知らず知らずのうちに人を傷つける言葉を使ってしまう事もあり喧嘩になる事もあります。今までは、自分の事しか考えられなかったけど、先生たちと話すことで、今は人を傷つけないように心がけるようになり、相手の気持ちを考えて発言できるようになりたいという目標を持って生活しています。 中学1年 富田 朋華

僕はユニットでいつも暴力を振るわないように頑張っています。一緒に生活している中高生の人たちも、僕と遊んでくれたり優しくしてくれることが多く、暴力を振るう人はほとんどいません。でも僕は楽しくなると年上の人に乱暴な言葉を使ったりしてしまうことがあるので、なおしていきたいです。 小学4年 飼森 人時



僕は5周年の時にもここで決意表明をしました。その時に、「安全委員会の3つの約束を守って頑張る」と言いましたが、守れていない時があります。特に同学年の友達とは、イライラした時に我慢できず喧嘩になることが多いので気をつけたいです。喧嘩も多いけれど、仲良く出来る事もたくさんあるので、暴力をしたりケンカをしないように頑張ります。

小学6年 西脇 直生



僕は、中学生になってハンドボール部に入り、今はレギュラーを目指して頑張っています。今年の陸上記録会ではボール投げで学校新記録を出し1位になりました。安全委員会が始まって6年間、僕は今、生活の中で暴力を振るう事はほとんど無くなりましたが、小学生の無礼な態度に腹を立て、「調子に乗るなよ、泣かせるよ」と年下の子を脅して追いかけてしまうことがあります。しかし、部活と一緒に、辛いときも苦しいときも腹が立つときも、怒らないで我慢して頑張っていきたいと思ひます。今日から安全委員会でも金メダルを目指していきます。

中学1年 河野 瑞樹

私は、去年イライラした時に何度か養護園から飛び出したことがありました。しかし、今年に入ってから先生や友達に相談したり自分を落ち着かせることが出来るようになり、飛び出すことが無くなりました。今も、他の子とトラブルになった時には苛立つ事もあるけれど、飛び出したり暴言を言わずに相手に自分の気持ちを伝えられるように気を付けています。私は来年度で養護園を卒業するので、社会に出た後も安全委員会で学んできたことを大切にしていきたいと思ひます。

高校2年 松島 結里奈

全国児童福祉安全委員会連絡協議会

第八回全国大会（千葉大会）に参加して
 心理療法担当職員（臨床心理士） 藤井 加奈

安全委員会全国大会への参加は二回目です。一回目は北海道大会だったので、津軽海峡を越えての初めての全国大会に、ワクワクドキドキしながら千葉県に向いました。

今回は二日間、十名のグループでのディスカッション形式でした。當眞先生の優雅な進行にうっとりしつつ多くの方々と対話出来、安全委員会の活動内容、導入施設の地域性や管轄見相、勤務形態の違い等も知り、多くの気付きを得られました。

当園から大畑副施設長の実践発表があり、六年目を迎へ、この間で暴力は減少し落ち着いた生活を送れていることや、グループワークの手法の活用や個別的時間の増加等、当園の取組みが報告され、中でも、『安全委員会課』の存在には他施設の方々が興味を示され、當眞先生には「暴力を許さない文化がある」と評価を頂きました。

私は心理士として入所児童へ心理療法を行っていますが、子どもからの暴力の恐怖を感じることなく支援が出来ています。しかし、他施設では暴力による警察の介入や受身の練習をしたことを知りました。また、田嶋先生と少しお話が出来る機会があり、「安全委員会がきちんと機能すると心理療法の効果もより出てくる」と教えられ、安心・安全が確保されているからこそ内面への支援も響くのだと、暴力が子どもの成長に及ぼす影響の重大性を改めて噛みしめました。

全国大会への参加は私にとって
 発見と驚きの連続でした。



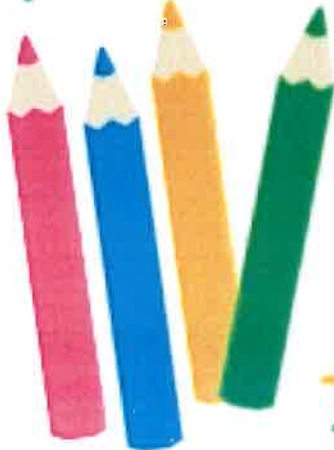
小川先生が今年度をもって会長を退任されることとなりました。
 小川先生、いつもありがとうございます！！
 ♪♪ 記念撮影 ♪♪



～意識調査 アンケート結果から～

年1回行っている施設の子どもへの意識調査アンケートから、今回、安全委員会の浸透により、施設全体の暴力発生件数が減少している一方で、『子どもに善悪を教えるうえで叩いて教えることも必要だと思いますか』という質問項目に対し、『叩かないで教えるべき』と回答した児童が前年度は86%でしたが、今年度は69%と減少し、『子どもによる』という項目が14%から27%へと増加している結果が出ました。そのため、この質問にYESと応えた児童への追加調査も行いました。すると、現在、年上児童から年下児童への暴力は激減しており、年少児童は比較的のびのびと生活を送ることができています。そのため年上児童に対して生意気な言動を示すことも増え、年上児童はそのことを色々和我慢している状況が浮かび上がってきました。どの子どもも「暴力はダメ」という意識が浸透しているので、実際に叩くようなことはほぼしていません。しかし、「叩きたくなる」という気持ちを持っているという現状も伺え、それが、今回の様な結果となったのではないかと考察しています。

子ども達は『暴力はダメ』という意識は持っています。しかし、一方で暴力を振るわれたいという安心感から生じる年下児童の無礼な態度に対し、時には「叩きたくなることもある」という気持ちを抱いていることがわかり、今後は、子ども達に、自己コントロールをしていることへの評価と、「たとえ相手が悪くても暴力はダメ」という暴力に対する意識改善への働き掛けを更に重点的に行っていく必要性を感じる結果となりました。



質問: 子どもに善悪を教えるうえで叩いて教えることも必要だと思いますか?	H28	H27	H26	H25	H24
無回答	0%	0%	2%	0%	0%
子どもによる	27%	14%	28%	25%	19%
叩かないで教えるべき	69%	86%	70%	73%	72%
そのとおりだと思う	4%	0%	0%	2%	9%